

氷見校区タウンミーティング開催報告

【日 時】令和5年2月18日（土）10：00～11：30 【場 所】氷見公民館 2階大ホール

【参加者】氷見校区連合自治会長など全10人 ・傍聴2人

市長、公民館長、市民生活部長

【次 第】1 開会 2 挨拶（氷見校区連合自治会長） 3 市長挨拶・事業説明（別添資料）

4 意見交換：テーマ「人口減少に伴う校区再編成の可能性と自治会の統合等の可能性について」

5 まとめ・閉会

概 要

【自治会長挨拶】

氷見タウンミーティングは3年ぶりの開催となる。役員の交代もあり、初めて参加する人も多いと思うが、地域にある課題について話し合う場である。積極的な発言をお願いしたい。

参加者の発言要旨

市の発言要旨（及び対応）

人口減少対策

人口減少対策として、産業が重要である。西条市の場合には農業に力を入れることが大切ではないか。

農業で食べていける政策をお願いしたい。これは国政だと思うので、市や県市長会から国へ要望してほしい。

「地域活力の源泉は産業にあり」とよく言っているが、根底には一次産業がある。耕作地を集約し、広面積で生産性・製品の付加価値を高めていくことで農業の水準を上げていきたい。兼業農家・小規模農家も含め、西条の強みをしっかり守りたい。

また、県・国へ求めるべきものと、市独自で進めていく施策と両輪で進めていく。

何をするにしてもどこかのタイミングで状況を整理して、必要なもの、そうでないものを話し合わねばならないだろう。

学校関係の役員の仕事も、責務を全うする姿を子ども達に見せておくことも大事だと思うので、地域の方と協力して考えていきたい。

今を生きる親世代が未来を担う子ども達にしっかり背中を見せることが大事である。

行政の責任も同様で、事業においても残すもの、見直すべきものを整理していかねばならない。

子どもの教育環境

小学校の児童数も減ってきている。将来的に1学年10人以下という推計も出ており、そうなった時に十分な授業ができるのか疑問に思う。

児童生徒や先生も減り、学校の数が変わらないのなら、大変な状況になるのではないか。

これらの状況を踏まえて、学校の校区が今後どのように変わっていくのか知りたい。

これまで、地域に子ども声がある限り学校の統廃合は行わないと言ってきたが、「複式学級はいいのか」等と他の地区でご指摘を受け、皆さんの率直な声を聴く必要があると実感した。

そこで、望ましい学校規模について本年度小学6年生と中学3年生の保護者と小中教職員にアンケートを実施し、8割の回答を得た。

結果は、「学校の再編が必要とする回答が約7割を占め、3割の「今の配置のままでよい」を大きく上回った。

いずれにしても皆さんの声を大切にしながら、教育委員会を中心に、今後学校規模の適正化の方向性をご提示できるように考えていく。

自治会の再編の可能性

自治会も校区単位で活動しているので、学校の校区が変われば、それに伴って体制が変わるのだろうか。

自治会再編に際し、各単位に対しどのような支援体制があるのか教えてほしい。

校区再編があったとしても、必ずしも自治会が合併する必要はないと思っている。小規模でネットワークよく活動できることもあるだろう。地域の皆さんが活動しやすいように話し合ってもらいたい。

合併に対する支援について、他県では助成事例があるようだが、西条市では行っていない。

市では、自治会機能を補完するものとして、地域自治組織の設立を進めており、市とパートナーシップ協定を締結した組織に助成金を出している。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
自治会の再編の可能性	
<p>氷見校区において、3～4世帯で一つの自治会を作っているところがある。合併を提案しても賛同してもらえず、まとめていくことは難しそうだ。</p> <p>自治会機能の低下が懸念されるので、小規模自治会の合併の機運を市に盛り上げてほしい。</p>	<p>皆さんの気持ち次第と思っているので、無理やり進めることはしない。協議しながらでいいと思う。</p>
<p>自治会未加入や脱退した人は、ごみステーションを利用し、防犯灯の恩恵も受けているものの、自治会費は支払っていないので、自治会に助成してほしい。</p>	<p>高齢者が自治会から抜け、若い人は加入しないことから地域への帰属意識が薄くなっていると感じる。</p> <p>提案の域ではあるが、自治会加入の有無に関わらず、ごみステーションの利用や防犯灯等の受益の応分の負担を求めるなど地域のルールを話し合ってはどうか。</p>
<p>自治会の合併については、だんじりなど自治会単位でもつ財産の問題をクリアしなければならない。</p>	<p>地域の宝である祭りやだんじりがコミュニティの重荷になって、逆に帰りづらい、という状況もあるのだろう。氷見だけの問題ではないと思う。</p> <p>どうしていくのがいいか、考えないといけない時期がきたということだろう。耳障りな話も出てくるだろうが、だんじりもコミュニティのことも次の世代に気持ちよく引き継ぐことができるように、今からみんなでちょっとずつ考えていきたいと思いますという呼びかけが必要なかもしれない。</p>
<p>今は大勢の年長世代が祭りを運営してくれているが、将来的には地元で就職した少数の者が担っていかねばならないので地元に戻ることを躊躇する若者もいるようだ。</p>	
Uターン促進に向けた教育	
<p>市外に出た子ども達が将来氷見に戻ってくるような教育をしてほしい。</p>	<p>今の高校生は多方面で活躍しており、県立5校ともにプレゼン内容もさることながら、地元愛に溢れているという評価をいただいている。</p> <p>我々行政も子ども達に地域への愛着をしっかりと育んでもらえるように努めていく。</p> <p>令和6年度までに市内全小中学校でのコミュニティ・スクール（地域とともにる学校づくり）のスタートを目標としており、地域の歴史・文化をよく知る皆さんが学校教育や行事等にどんどん関わっていただくことで、子ども達がまちに関心を持つ場面が増えてくると思っている。</p> <p>よろしくお願ひしたい。</p>
<p>西条市には、消滅した村もあるという歴史を学校の授業で取り上げて、子ども達がまちの歴史の興味を持つようになり 自分達のまちはいいまちなんだと思ってほしい。</p>	
<p>氷見小では年2回保護者や児童にアンケートをする中で、「地域の皆さんが子ども達の生活を見守ってくれている」と回答する率が高い。</p> <p>既に地域の方が学校をサポートしてくれる受け皿がたくさんあるので、令和6年度から始まるコミュニティ・スクールに上手く移行していきたい。</p> <p>中学校は比較的地域との交流が少ないと痛感しているが、小学校も含め地域とのつながりをよく深めていきたい。</p>	
産業の発展	
<p>今治にはしまなみ海道のほか、ブランド化された今治タオル、勢いのあるFC今治、根強い造船業などがある。</p> <p>西条市は下請け企業が多いイメージだが、今はイノベーションの時代で、新しい活用法や切り口を用いて世界に通用するようなベンチャー企業を育ててほしい。</p>	<p>西条市の人口は今後減少していくことを前提にしているが、西条を良くしようと活動する人が増えれば、地域活力は維持できると考えている。</p> <p>今後も西条は西条らしく、チャレンジを応援するという切り口で、まちの活性化に繋げていく。</p>
<p>市外に出た若者に戻ってきてもらうには、雇用を増やすことが大事だと思う。</p> <p>地元出身者で有力な若手起業家を発掘して、市内で新しい事業を立ち上げるための支援を西条市でやってほしい。</p>	<p>西条産業情報支援センター（サイクス）では起業家の育成や地元企業のサポート、新産業創出のコーディネート等幅広い支援体制を整えている。</p> <p>大企業の誘致は難しいかもしれないが、リモートワークの普及により、市内にワークスペースを設けてもらうなど企業の横展開を広げていきたい。</p> <p>また、持続可能という点でいくと、SDGs・DXで地域の課題を解決するベンチャー企業の誘致に成功している。西条市だけでなく、近隣市や県を巻き込んで育てていきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
高齢者施策	
<p>少子高齢化時代の今、高齢者に対しても居場所やコミュニティづくりなど、具体的な施策をお願いしたい。</p>	<p>もちろんである。高齢化社会において、行政ができること、そして地域の皆さんと一緒に歩んでいきたい。</p>
<p>【まとめ】 <市長> 「氷見倶楽部」が立ち上がっているこの校区は、これまでもコミュニティを大切にしてきたのだと思う。次の世代にしっかりバトンタッチできる氷見校区・西条市であるよう、一緒に進んでいきたい。 <連合自治会長> 自治会としては、消化業務になるようなことはやりたくない。今日のように皆さんが発言ができて、まちが良くなるように話し合えるタウンミーティングは来年も開催予定と考えているのでよろしくをお願いしたい。</p>	

<当日の様子>

